

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-88401

(43)公開日 平成5年(1993)12月3日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 D 2/36	B			
7/00	Q			
	K			

審査請求 有 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21)出願番号 実願平3-50048

(22)出願日 平成3年(1991)6月28日

(71)出願人 591130548

有限会社ワイルド

福島県福島市蓬▼らい▲町76番地の2

(72)考案者 中野 竹治

福島県福島市蓬▲らい▼町76番地の2 有

限会社ワイルド内

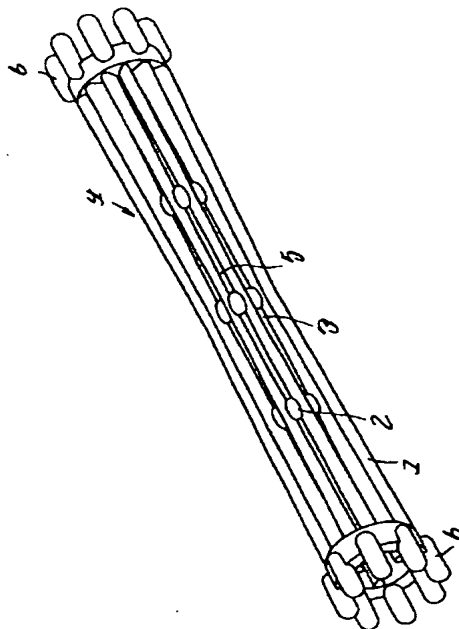
(74)代理人 弁理士 吉井 昭栄 (外2名)

(54)【考案の名称】 パーマ用ロッド

(57)【要約】

【目的】 本考案は、毛髪へのウェーブ形成を良好に行い得るパーマ用ロッドを提供することを目的とする。

【構成】 複数の合成樹脂製の細杆1を円筒状に設け、隣同志の細杆1を合成樹脂製の連結杆2により適当ヶ所で連設して複数の窓孔3を有する合成樹脂製の筒体4を設け、この筒体4内に遠赤外線を放射する焼結セラミック棒体5を挿入し、筒体4の両端に複数の合成樹脂製の係止突杆6を設けたものである。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 複数の合成樹脂製の細杆を円筒状に設け、隣同志の細杆を合成樹脂製の連結杆により適当ヶ所で連設して複数の窓孔を有する合成樹脂製の筒体を設け、この筒体内に遠赤外線を放射する焼結セラミック棒体を挿入し、筒体の両端に複数の合成樹脂製の係止突杆を設けたことを特徴とするバーマ用ロッド。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の斜視図である。

【図2】 本考案の断面図である。

【図3】 図2におけるA-A指示線の断面図である。

【図4】 本考案の側面図である。

2

* 【図5】 本考案の別例の斜視図である。

【図6】 本考案の別例の筒体の断面図である。

【図7】 同上の筒体の側面図である。

【図8】 同上の筒体に挿入する焼結セラミック棒体の正面図である。

【符号の説明】

1 細杆

2 連結杆

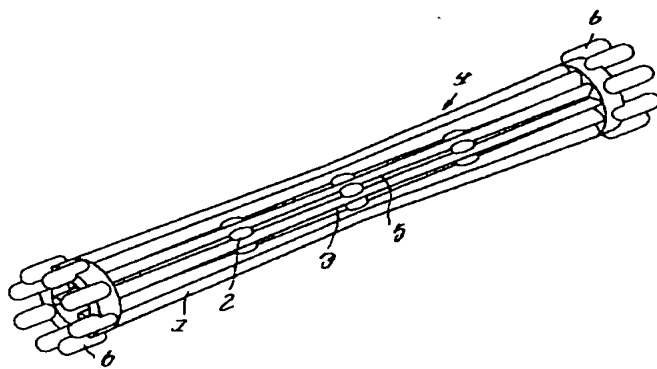
3 窓孔

10 4 筒体

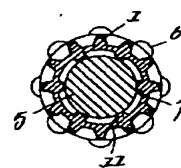
5 焼結セラミック棒体

* 6 係止突杆

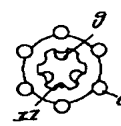
【図1】



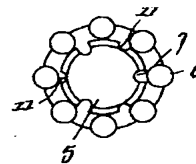
【図3】



【図7】



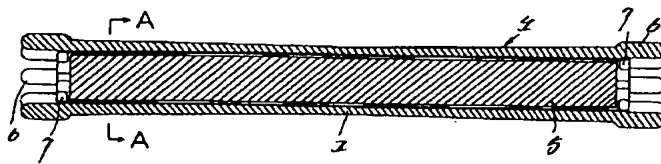
【図4】



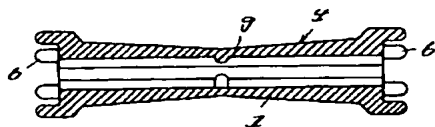
【図8】



【図2】



【図6】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、毛髪にウェーブを形成する為のパーマ用ロッドに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

本願の発明者は遠赤外線を発生する焼結セラミックにより形成したパーマ用ロッドを用いる毛髪のウェーブ形成方法として特願平2-337215号(以下従来例という。)を提案している。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

しかし、本願発明者は、従来例を種々試してみたところ、従来例に係るパーマ用ロッド即ち、オールセラミック製のロッドには次の欠点があることを確認した。

【0004】

①従来例の該ロッドはオールセラミック製である為、誤って落としたりすると破損したりする場合は往々にしてある。

【0005】

②従来例の該ロッドは毛髪を巻回した後に輪ゴム等で毛髪の巻回を固定する為の係止突杆がロッド両端に必要となるが、両端にこの係止突杆を形成することは、該ロッドがオールセラミック製である為厄介である。

【0006】

③この種のパーマ用ロッドは多数本必要となる為製品として量産性を有するものでなければ実用的ではない。従来例の該ロッドはこの量産性の面で非常に劣る。

④従来例の該ロッドはオールセラミック製である為、やはりある程度重くなるという欠点がある。

【0007】

⑤従来例の該ロッドは外観上好ましいとは言えない。

【0008】

⑥従来例の該ロッドはオールセラミック製であり、表面が平滑である為滑り易く、毛髪を該ロッドに巻回する際、誤っておとしてしまい易い。

【0009】

⑦従来例の該ロッドはオールセラミック製であり、それほど安価には製作できない。

【0010】

本考案はこのような欠点を解決したパーマ用ロッドを提供することを技術的課題とするものである。

【0011】

【課題を解決するための手段】

添付図面を参照して本考案の要旨を説明する。

【0012】

複数の合成樹脂製の細杆1を円筒状に設け、隣同志の細杆1を合成樹脂製の連結杆2により適当ヶ所で連設して複数の窓孔3を有する合成樹脂製の筒体4を設け、この筒体4内に遠赤外線を放射する焼結セラミック棒体5を挿入し、筒体4の両端に複数の合成樹脂製の係止突杆6を設けたことを特徴とするパーマ用ロッドに係るものである。

【0013】

【作用】

焼結セラミック棒体5から放射される遠赤外線は窓孔3を通して筒体4に巻回されている毛髪に作用し、遠赤外線的作用により毛髪へのウェーブ形成を良好に行い得る。

【0014】

また、筒体4の外周には細杆1と窓孔3とにより凹凸が配されることになる為、毛髪巻回時に毛髪に容易にテンションがかかることになる。

【0015】

【実施例】

図面は、本考案の実施例を図示したもので、図1～4は第一実施例、図5は第

二実施例、図6～8は第三実施例である。

【0016】

第一実施例について説明する。

【0017】

12本の細杆1を湾曲形状の連結杆2により連設し、両端に8本の係止突杆6を突設した合成樹脂製の筒体4を一体成型し、この筒体4に円柱状の焼結セラミック棒体5を圧入した構造である。この12本の細杆1のうち1つおきの6本には焼結セラミック棒体5の外周面に当接するセラミック押さえ凸条11が設けられている。

【0018】

尚、筒体4への焼結セラミック棒体5の圧入は筒体4の可撓性を利用し、筒体4を手で押し開いて行う。図中符号7は焼結セラミック棒体5の抜け止め突体である。

【0019】

第二実施例について説明する。

【0020】

8本の細杆1を連結杆2により連設し、外側端に4本の係止突杆6を突設した半筒体4'を焼結セラミック棒体5の左右から被嵌した構造である。

【0021】

第二実施例において左右の半筒体4'の当接部8は細杆1の1本ごとに左右にずらして同一断面上に位置せしめないようにする。これは、該当接部8が同一断面上に位置し、1本の円状の溝が形成されると該円状の溝に毛髪が挟まってしまい毛髪の巻回作業に支障を来たしてしまうからである。

【0022】

第三実施例について説明する。

【0023】

第三実施例は、抜け止め突体7の代わりに筒体4の中央内面の3ヶ所に係止突体9を設け、この係止突体9が係止する凹溝10を焼結セラミック棒体5の中心外周面に繞設した構造である。この係止突体9と凹溝10とにより筒体4への焼結セ

ラミック棒体5の挿入が容易となり、且つ焼結セラミック棒体5は筒体4内に確実に固定されることになる。その余の構造は第一実施例と同様である。

【0024】

尚、焼結セラミック棒体5はアルミナ、シリカ等に補強用のガラス繊維を配し、1800℃～2000℃程度で焼結して形成したものをを用いる。

【0025】

【考案の効果】

本考案は上述のように構成したから、巻回した毛髪に窓孔を介して良好に遠赤外線が照射され、毛髪のウェーブ形成が良好に行なわれる。焼結セラミックは蓄熱性に秀れている為、特に本案品を加温して用いると焼結セラミック棒体からは均一な遠赤外線放射がなされ、それだけ毛髪のウェーブ形成が良好に行なわれることになる。また、本考案は、細杆と窓孔とで形成される凹凸が筒体の外周面に存するから、毛髪巻回に必要な毛髪への良好なテンションが容易に得られ、毛髪が巻回し易い等秀れた効果を発揮するパーマ用ロッドが提供されることになる。